

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 号	氏 名	SUBANGKIT MAWAR
審 査 委 員	主 査 氏 名	三 澤 尚 明	
	副 査 氏 名	米 峰 潤 三	
	副 査 氏 名	新 竜 一 郎	
[論文題名]			
Genotype of swine <i>Mycobacterium avium</i> subsp. <i>hominissuis</i> isolates from Kyusyu, Japan. (九州産の豚 <i>Mycobacterium avium</i> subsp. <i>hominissuis</i> の遺伝子型判定)			
[要 旨]			
<p>非定型抗酸菌を原因とする疾患は、日本を含む世界中で増加傾向にある。<i>Mycobacterium avium</i> subsp. <i>hominissuis</i> (以下、MAH)は、動物と人の慢性肺疾患の主たる原因となるもつとも一般的な非定型抗酸菌の一種である。本研究においては、マイコバクテリウム散在性反復配列多型分析 (MIRU-VNTR)による遺伝子型別法を用いて、九州のブタから分離されたMAHの遺伝的多様性を明らかにすることを試みた。</p> <p>食肉衛生検査場に搬入された九州の健常ブタ 107 頭から採取した腫張リンパ節から非定型抗酸菌 309 株を分離し、そのうち 307 株が MAH に属することを確認した。8 領域を標的とした MIRU-VNTR により、3 つの系統を構成する 50 遺伝子型に分類されることがわかった。これらの 50 遺伝子型のうち 29 遺伝子型は、Mac-INMV データベースに登録されていない新規の遺伝子型であることを明らかにした。3 つの遺伝子型 (ky07、ky08、ky33) が、他の遺伝子型に比べて有意に高い検出率を示した ($p < 0.05$)。これらの 3 遺伝子型のうち、ky08 は、過去に日本のブタからの検出が報告されていた。しかしながら、ky07 は日本での報告はなく、また ky33 はヨーロッパでの報告が多く、フィンランドやフランスではブタからだけでなく、ヒトからの分離が報告されていた。</p> <p>本研究では、九州地区の豚においては、3 つの MAH 株を中心とした非定型抗酸菌が蔓延していることを明らかにした。また、過去に報告のない新たな MAH の流行、ヒト由来 MAH と高い相同性を示す MAH の存在を示唆する結果を得た。これらの結果は、日本におけるブタにおける非定型抗酸菌の防疫意義を提言するだけでなく、ヒトとブタ間における非定型抗酸菌調査及び制御対策の必要性を訴えるための重要な基盤情報となることが期待され、学位論文に値するものと判断した。</p>			

最終試験結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 号	氏 名	SUBANGKIT MAWAR
審 査 委 員	主 査 氏 名	三 澤 尚 明	
	副 査 氏 名	氷 峰 潤 三	
	副 査 氏 名	新 竜 一 郎	
[要 旨]			
令和元年7月23日に学位申請論文の内容およびその関連領域について口頭試問した結果、SUBANGKIT MAWAR氏は学位（博士）を授与するに値する学力を有するものと判断した。			